

【道路計画・鉄道計画に関すること】

Q1 阪急電鉄神戸線の高架構造の耐震性や高さはどのようなになっているのか。

A1 構造物は最新の耐震基準に適合した設計とすることとしており、最も高い箇所(三国塚口線との交差部)で路面から約 5.0m になります。

Q2 鉄道線形がカーブする計画となっているが、安全性に問題はないのか。

A2 阪急電鉄とも協議のうえ、列車の走行性能や安全性に関する技術基準を満たした計画としています。

Q3 道路を高架案だけでなく地下案を聞いたことがあるが、検討していないのか。

A3 検討の段階で比較検討を行った結果、地下方式にすると旧猪名川への影響や地下水・軟弱地盤対策等で事業費が大きくなります。加えて施工性、維持管理性、沿線のまちづくりなども総合的に勘案し、現在の計画を採用しております。

Q4 三国塚口線と山手幹線を結ぶ橋は整備されるのか。

A4 兵庫県側へ橋梁を整備し、山手幹線と接続する予定です。

Q5 橋梁部分だけを先行整備することはできないのか。

A5 橋梁のみを整備すると接続先道路の容量不足により渋滞や事故が発生するおそれがあるため、道路全体を一体的に整備する予定です。

Q6 神社参道の分断にどのように対応するのか。

A6 地域の意見を踏まえながら検討し、詳細設計段階で関係機関と協議を進めます。

Q7 三国塚口線の整備には時間がかかるので、その間に現道の安全対策は実施しないのか。

A7 現道で可能な安全対策を検討するとともに、用地取得の状況を踏まえながら必要に応じて先行的な対策についても検討します。

Q8 本事業の優先度は高いのか。

A8 大阪府都市整備中期計画に優先度の高い骨格道路として位置付けており、令和 12 年度までに事業着手し、事業実施する路線となっています。

Q9 住民意見は今後の道路の整備計画に反映されるのか。

A9 住民意見は参考としますが、公共性や地域全体への影響を総合的に勘案して判断します。

【事業スケジュールに関すること】

Q1 工事着手までにどの程度の期間を要するのか。

A1 一般的な期間として、都市計画変更後、事業着手に向けた手続きに1～2年程度、事業着手後の測量・設計に2～4年程度を見込んでおり、その後に用地買収協議を進めます。工事着手時期は用地取得の進捗によります。

Q2 都市計画道路の対象範囲はいつ分かるのか。

A2 事業着手後の測量や詳細設計を経て確定します。

Q3 事業全体の期間はどの程度を想定しているのか。

A3 現時点で具体的な期間は未定ですが、事業規模から10年以上を要すると考えています。

【用地買収・補償に関すること】

Q1 用地買収や建物移転に伴う補償はどのように行われるのか。

A1 国の補償基準に基づき、土地・建物等の調査や評価を行ったうえで、適正な補償額を算定し金銭補償を行います。また営業補償の対象となる場合もあります。

Q2 代替地の提供はあるのか。

A2 代替地は原則、斡旋していませんので、必要な場合はご自身で確保していただくことになります。

Q3 都市計画線にかかる場合、移転は確定しているのか。

A3 都市計画区域内の土地・建物は移転等が必要となる可能性があり、今後個別協議を行います。

Q4 用地取得が進んだ箇所から工事を実施するのか。

A4 一定区間の用地がまとまって確保できれば、順次工事を進めることも考えています。

【環境影響に関すること】

Q1 環境影響評価は将来の交通量を考慮しているのか。

A1 道路整備後の交通量や周辺環境を予測したうえで評価を実施しています。

Q2 工事により家屋にひび割れ等が生じた場合、補償はあるのか。

A2 工事前後に家屋調査を実施し、工事の影響による損傷が確認された場合は、損傷箇所の補修に必要な費用を金銭補償します。

Q3 交通量増加による振動への対策は行うのか。

A3 環境影響評価において、将来交通量を用いて予測をし、基準を満足すると評価しておりますが、完了後の調査結果を踏まえ、必要に応じて適切な対策を検討します。

【まちづくりに関すること】

Q1 地域の交通アクセスに課題などがあり、過去に新駅設置などの構想があったが、検討するのか。

A1 三国塚口線の整備に併せて新駅の検討はしていません。まずは既存駅へのアクセス向上や既存駅の周辺整備により地域の利便性向上を図っていく方針としています。

Q2 地域の交通利便性や店舗などの地域活性化の課題に対する対応はどうするのか。

A2 地域の課題に対しては、豊中市において三国塚口線の整備を契機としたまちづくりなどで検討していきます。